・沼口　敦（国立環境研究所）
「モデルは地球を救うか？」

討論内容については省略するが，各グループとも活発な討論が交わされ大変盛り上がった模様である．設定の3時間を越えるグループもあり，急きょ時間を延長するなど，嬉しい誤算もあった．討論会終了後，グループ討論会内容報告会が行われ，翌日のパネルディスカッション（総合討論）の伏線となった．

2日目の懇親会も深夜まで大いに盛り上がった．紋別市より“かに”の差し入れもあり，これには参加者一同大喜びであった．また一部では勉強会が始まったり，討論会のテーマについて盛んに議論されたグループもあった．

最終日の午前に冬の学校を締めくくるパネルディスカッションが行われた．座長は玉川一郎さん（名古屋大学大気水圏科学研究所）にお願いし，コーディネーターの皆さんをパネラーとして，「気象学の“分野”をつなぐものは何か」について討論が行われた．分野に対する認識の違い，分野間のコミュニティーの違いや壁の存在，分野をどのようにつなぐか，などの議論が活発に交わされた．まとめでは，研究者は1人1分野を持つべき，分野とはそれぞれの研究目的についてくるもの，そして他人に理解されるように説明することが大事である，などの意見が出て締めくくられた．

パネルディスカッションの終了後に反省会が行われ，次回の幹事を東京大学に依頼して，冬の学校は閉校した．

3．おわりに

今回の冬の学校開催にあたっては，気象学会事務局及び講演企画委員会には大変お世話になり，また従来の夏の学校と同様に補助金も戴くことが出来ました．また紋別市には後援を快く引き受けて頂き，運営においてありとあらゆる面をサポートして頂きました．ここに記して感謝の意を表します．

なお期間中，紋別沿岸はびっしり流氷に覆われておりました．また天候に恵まれたのも幸いなことでした．

最後になりますが，実行委員会では今回の冬の学校の実施報告書を別途作成しております．より詳しい内容をお知りになりたい方には配布致しますので，下記までご連絡下さい．

〒060 北海道札幌市北区北19条西8丁目
北海道大学低温科学研究所
本田　明治
TEL：011-706-5479　FAX：011-706-7142
E-MAIL：meiji@clim.lowtem.hokudai.ac.jp

シンポジウム「北極域の雪氷と大気」のお知らせ

極域研究連絡会

日　時：10月19日(木)　9:00～13:00
場　所：大阪市中央区大手前4-1-76
合同庁舎4号館(大阪管区気象台のあるビル)
講堂（4階）
地下鉄谷町線または中央線，谷町4丁目下車すぐ

世話人：山崎孝治（北大），和田誠（極地研），
小西啓之（大阪教育大）
（詳細は大会会場掲示板参照）